

報道提供資料
令和8年1月9日

(問合せ先)
義務教育指導課 主任指導主事 丸山 博章
直通電話：082-513-4974
内線：4974
高校教育指導課 主査 内海 圭吾
直通電話：082-513-4998
内線：4998

第18回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰について ～本県から2校が表彰されます～

第18回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰について受賞校が決定され、本県からは安芸高田市立向原中学校及び県立尾道商業高等学校の2校が受賞しました。

この表彰は、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた教育委員会、学校及びPTA団体等に対して、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰することにより、キャリア教育の充実を促進することを目的としています。

1 被表彰校

安芸高田市立向原中学校
広島県立尾道商業高等学校

2 表彰式

- (1) 日時 令和8年1月19日（月）14時00分～16時30分
- (2) 場所 文部科学省 3階講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

3 被表彰校の取組

- (1) 安芸高田市立向原中学校

生徒が自己の将来や生き方を考えることに結びつくよう、自分の興味・関心に基づいた「問い合わせ」を立てることから始め、学年が進むにしたがって「地域・社会」に提案することを目指した「My探究」へと進化させていく。

- (2) 広島県立尾道商業高等学校

産業教育コーディネーターの配置を活用し、地域企業・団体との連携による課題解決型学習を実践。商店街やNPOとの協働、他校との交流など、地域課題に向き合う実践的な探究活動を通じて、生徒のキャリア形成と地域人材育成を両立する。



「実生活・実社会の課題」を見つけ、社会へ還元する「My探究」

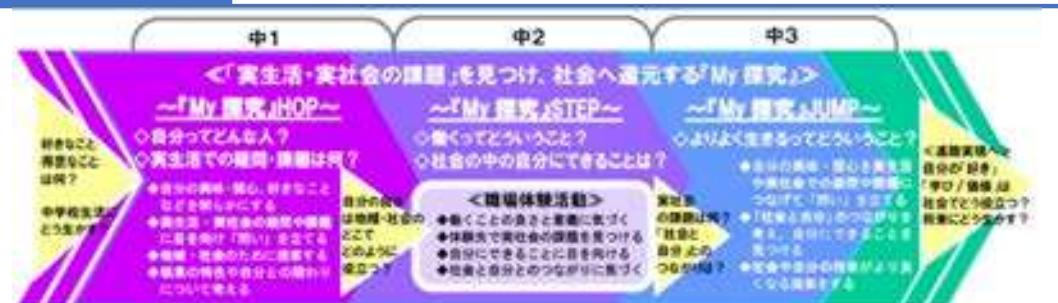
キーワード

My探究

取組概要

生徒が自己の将来や生き方を考えることに結びつくよう、自分の興味・関心に基づいた「問い合わせ」を立てることから始め、学年が進むにしたがって「地域・社会」に提案することを目指した「My探究」へと進化させていく。

取組の詳細



「興味・関心」を深めることで終わらず、探究によって明らかになったことを「地域・社会」に役立つよう提案することを目指す「My探究」

- 小中の7年間を通して、「自分の興味・関心」に基づいて「問い合わせ」を立て、それを解決する
- 対話や協議をする時間を意図的に設定し、生徒の批判的思考力を刺激することで

思考力・判断力・表現力の育成を図る

【自己理解・自己管理能力】→1年時は、自分の好きなこと・得意なことを見つめることから始まり、自分の良さは地域・社会でのように役立つか探究を進める。

【課題対応能力の育成】→2年時は、職場体験活動を通して実社会の課題を見つけ、事業所や地域のために自分ができることは何かについて探究を進める。

【キャリアプランニング能力の育成】→3年時は、実社会の課題をもとに、自分とのつながりを考え、社会や自分の将来がよりよくなる提案をするための探究を進める。

基礎情報

団体の特徴（学校）

全校生徒は71名。生徒自身が「生徒が創る学校」に向けて、自ら考え、積極的に新しいことに取り組んでいる。また、小学校と連携しながら、身につけさせたい資質・能力を9年間のキャリア教育を通して育成している。

成果

・探究学習に係る知識・技能が定着した。

自分の興味・関心に基づいたテーマについて「問い合わせ」を立て、それを解決するための検証を適切な方法で実施した。87.1%

・自分の意志で課題の解決に取り組んだり、友達と協力しながら探究活動を進めたりする主体性・協働性が向上した。

友達とお互いの思いや考えを共有しながら協力して改善点を伝え合い、アドバイスをしながら課題の解決に取り組んだ。87.0%

・教育活動全体を通して、キャリア教育の充実に向けて「資質・能力」に着目していくという意識が定着した。

課題や今後に向けて

・「他者」「地域・社会」への提案・提言につながる探究活動に十分になっていない。

「他者」「地域・社会」に向けた、具体的で実現可能な提案・提言をした。61.1%

・キャリア教育の充実の視点で活動のブラッシュアップを図る。

・今後は、「My探究」をアウトプットする相手を明確にして探究活動に取り組めるようにする。



産業教育コーディネーターを活用した、地域課題解決に向けた探究的キャリア教育

キーワード

地域連携 / 探究学習 / 産業教育コーディネーター /

取組概要

産業教育コーディネーターの配置を活用し、地域企業・団体との連携による課題解決型学習を実践。商店街やNPOとの協働、他校との交流など、地域課題に向き合う実践的な探究活動を通じて、生徒のキャリア形成と地域人材育成を両立する。

取組の詳細

- 地域課題に対する探究学習の一環として、産業教育コーディネーターを活用。
- 尾道市内の商店街連携、NPO団体との協働、地元企業への提案などを通じ、実社会との接点を持ちながら課題解決型のキャリア教育を展開。
- 地域や産業界との連携だけでなく、授業内容の事前・事後支援についても産業教育コーディネーターが担当。

取組事例

- ▶ 服のチカラプロジェクト
⇒ 地元商店街と連携したPR及び回収活動
- ▶ 空き家再生プロジェクト
⇒ NPO法人の財務諸表分析と改善案提案
- ▶ 観光ビジネス
⇒ 尾道での修学旅行支援（事前学習・ガイド）



基礎情報

- 生徒数：約550名
- 地域：尾道市（人口減少・空き家・観光地）
- 商業科の専門性を活かし、1年～3年まで系統的な探究学習を実践
- 産業教育コーディネーター配置校（令和5年度～）

成果

- 地元企業・NPO・自治体等との連携：年間20件以上
- 「服のチカラプロジェクト」では、地域住民参加による衣類回収及びPR活動を実現（中國新聞に掲載）
- 「空き家再生プロジェクト」では、生徒による事業分析及び改善提案を実施。
- 修学旅行支援（東京都の高校と連携）における観光ガイドを通して、地域理解とプレゼン力が向上。
- 令和7年度は、3年「課題研究」で設定している10講座すべてで、地域と連携。

課題や今後に向けて

地域や産業界との連携、そして継続へ…

- 学校教育目標（～地域社会に貢献できる人材を育成する。）のもと、継続的な連携を行うため、以下の内容を整理する。
 - ① 単元や年間を見通した持続可能な教育活動となっているか。
 - ② 個々の生徒の状況に応じた教育活動となっているか。
 - ③ 学校と地域や産業界との協働体制を構築し、双方にとって意味のある教育活動となっているか。